次期学習指導要領 教科別まとめ　　高校 No.10

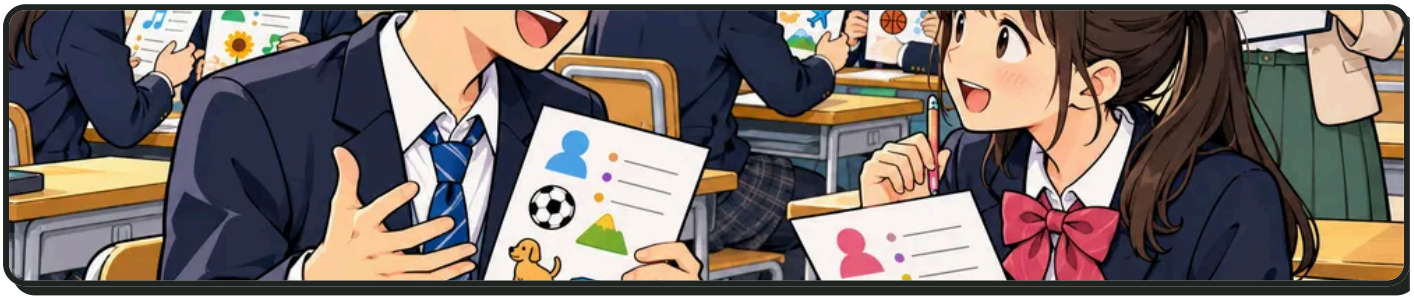
審議まとめ（2026年10月5日）を**高校の先生向け**にまとめ直しました

外国語（英語）

次期学習指導要領で、どう変わる？

高校版





10秒でいうと　英語コミュニケーション→同（総合）、論理・表現→英語コミュニケーション（発信）に改称

やさしく言うと

高校では、科目の名前を変える案が出ています。
「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション（総合）」になる案です。「論理・表現」は「英語コミュニケーション（発信）」になる案です（どちらも仮称）。発信の科目では、話す・書く活動を中心にした授業へ改める方向です。CEFR B2レベル相当以上の英語力などを条件に、必履修科目の免除・振替を認める案もあります。

高校はいつから？

全面実施	**2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）**（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 外国語（英語）のポイント　4つ
2 主な変更点　34項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　23項目
4 目標の新旧（現状→改善イメージ）
5 語彙（単語の数）はどうなる？
6 CEFRレベルの目安
7 高校の科目と単位（現行→次期）
8 評価はどう変わる？
9 国が用意するもの（支援）
10 生成AI・ICTとの付き合い方　13項目
11 今からできる準備チェックリスト　20項目
12 次期を先取りする授業アイデア　13本
13 指導案（試案）　2本
14 現行の学習指導要領・解説（高校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ
研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

外国語の3行要約（全校種）

1. 「言語活動」を「コミュニケーション活動」と「それを支える活動」に分け直し、英語の目標は「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力」の3つの柱で示す方向。
2. 国が基盤語彙リストを作り、中学校の文法は使用頻度の高いものに絞り、「社会的な話題」は「身近な社会的な話題」にするなど、難しくなりすぎた内容を適正化する方向。
3. 高校の科目は「英語コミュニケーション（総合）」「同（発信）」（いずれも仮称）とする案。B2レベル相当以上などの要件を満たす場合の必履修科目の免除・振替や、AIの適切な活用の明記も提案された。

※高校の新科目名「英語コミュニケーション（総合）」「英語コミュニケーション（発信）」は仮称。単位数（学習量）は現行と同じ。外部試験でCEFR B2レベル相当以上の英語力を確認することなどを要件に、英語コミュニケーション（総合）Ⅰの免除・振替を学校の判断で可能とする案。対象試験・振替先・実施条件は今後、解説等で具体化（P48～49、P284）。

1 外国語（英語）のポイント

4つ

1 科目名を「総合」と「発信」に変える案

両方の科目名に「英語コミュニケーション」を付け、英語で伝え合うことが中心だと示す案です。「総合」は5つの領域をまとめて扱う科目です。「発信」は、話すこと（やり取り・発表）と書くことで発信力を強める選択科目です。科目名はどちらも仮称です。 P281 資料編（3）P22（外㉒）

授業では、たとえば たとえば、総合の科目で読んだ話題を発信の科目の意見文や話し合いでも使うなど、2科目の内容をつなぐ計画が考えられます。

2 発信の科目は「使う」授業へ

今の「論理・表現」では、授業で英語を使う機会が十分でない実態があると指摘されています。新しい発信の科目では、スピーチやディベートなどに加え、「日常的な会話」も扱う方向です。書くことは、書く過程を大切にする指導を強める考え方です。 P277 資料編（3）P23（外㉓）

授業では、たとえば たとえば、相手の話に質問や感想を返して会話を続ける活動を、毎時間のはじめに短く入れることが考えられます。

3 入学初期に学習状況をつかみ、中学の学びを使う

高校では入学してすぐの時期に、生徒の学習状況をきちんとつかむことが示されています。そのうえで、中学校で学んだことを繰り返し使い、考えて表現する活動を重視します。高校の「社会的な話題」にも、身近なものを含める方向です。 P281 資料編（3）P22（外㉒）

授業では、たとえば たとえば最初の単元で、中学校の文法を使う短い発表をさせ、つまずきをつかんでから年間計画を調整することが考えられます。

4 B2相当以上の力がある生徒の免除・振替

必履修の英語コミュニケーション(総合)Ⅰ(仮称)について、外部試験を使った免除・振替の案が示されています。必要な英語力はCEFR B2レベル相当以上が適切とされています。ただし、B2相当があれば免除できるわけではありません。社会的に信頼された外部試験の合格、振替先の科目で力を発展的に育てられること、本人の実態や希望から振替の方が大きな成果が見込めること、の3つをすべて満たす場合が対象です。そのうえで、学校として実施できる場合に限る仕組みとされています。
振替先には、発展的な学習や英語以外の外国語を学ぶ学校設定科目などが考えられています。細かい中身は解説等で定めるとされています。 P48 P49 P284

授業では、たとえば たとえば英語科で、対象になりそうな生徒がいるかを確かめます。振替先の科目を学校で用意できるかを、早めに話し合うことが考えられます。

2 主な変更点

34項目

1. 高 科目名を変える案

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は「英語コミュニケーション(総合)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は「英語コミュニケーション(発信)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」にする案が示された(いずれも仮称)。両方に「英語コミュニケーション」を置き、英語でのコミュニケーションが中核だと示す。英訳名も趣旨が伝わるよう検討する。 P281 資料編(3)P22(外㉒)

2. 高 新単位で表すが、標準単位数の位置付けは現行相当

1単位の学習量を35コマから17コマに細分化するため、英コミュ(総合)Ⅰは6新単位(必履修)、Ⅱ・Ⅲは8新単位、英コミュ(発信)Ⅰ～Ⅲは4新単位。外国語科の必履修科目の単位数等に変化はないとされている(1単位当たりの換算が変わるため、コマ数はわずかに減る)。 P80 P81 P82 資料編(3)P24(外㉔)

3. 高 英コミュ（総合）は領域統合をいっそう重視

中学校の学習内容の確実な習熟を図りながら、5領域を総合的に扱い、読んだり聞いたりしたことを基に話す・書く領域統合を重視する。教材は、聞く・読む力を育てる教材と、発信に使える言語材料でできた教材の2段階で単元を作る例が示されている。 資料編(3)P23(外㉓)

4. 高 英コミュ（発信）は発信力をさらに強化

話すこと[やり取り][発表]、書くことで発信力を強める選択科目。現行のスピーチ・プレゼン・ディベート・ディスカッションに「日常的な会話」を加え、「論理の構成や展開」を充実、書くことはプロセス重視、オンライン上で書いて伝え合うやり取りも位置付ける。 資料編(3)P22(外㉒) 資料編(3)P23(外㉓) 資料編(3)P46(外㊻)

5. 高 論理・表現の「文法解説中心」を改める

論理・表現では文法事項を網羅的に指導するため文法解説と問題演習中心の授業になっている場合がある。新科目では教材をコミュニケーション活動中心の単元構成にし、AIを含むデジタル学習基盤も使ったフィードバックの工夫を解説で示す。 P277 資料編(3)P23(外㉓)

6. 高 科目間のカリキュラム・マネジメント

英コミュ(総合)と英コミュ(発信)を並行して履修する場合、総合で扱った話題や言語材料を発信でも使うなどのカリマネが重要。教師の努力だけに任せず、教材間の連携を進め、学習指導要領でも工夫をうながす。
資料編(3)P22(外㉒)

7. 高 社会的な話題に「身近なもの」を含める

中高の接続から、高校の「社会的な話題」に身近なものも含め、中学校の既習の言語材料を繰り返し使いながら思・判・表を発揮する活動を重視する。 資料編(3)P22(外㉒)
資料編(3)P45(外㊺)

8. 高 入学初期に学習状況をつかむ

高校では入学初期に生徒の学習状況を適切に把握し、中学校の学習内容の習熟を図りながら、中学校の既習事項を繰り返し使って思・判・表を発揮する活動を重視する。 P281

9. 高 B2相当以上などの要件を満たす場合の英コミュ（総合）Ⅰ免除・振替を提案

B2だけで自動的に免除される制度ではなく、3つの要件を満たし、学校が実施できると判断した場合の選択肢。現行の高校の科目はおおむねCEFR A2～B1相当の習得を念頭に置き、今回も大きく変えない。これを大きく上回る水準としてB2レベル相当以上が適切とされた。振替先は、発展的な学習や英語以外の外国語を学ぶ学校設定科目、条件が整えば上位科目や学校外学修（大学の授業、海外のサマースクールなど）。同じ単位数を振替科目で修得する必要がある。 P48 P49 P284

10. 高 目標イメージ：英コミュ（総合）Ⅰ～Ⅲ

思・判・表は、Ⅰ「基本的な構成や論理の展開」、Ⅱ「多様な構成や論理の展開」、Ⅲ「やや複雑で多様な構成や論理の展開」の文章や話から考えを形成し、表現等を工夫して伝える・伝え合う、と段階を付ける。学びに向かう力には「外国語の習得に継続して取り組もうとする態度」が入る。 資料編(3)P10(外⑩) 資料編(3)P47(外㊼)

11. 高 聞く・読むはテキストの種類も示す

英コミュ（総合）Ⅰの「聞くこと」「読むこと」では、対話、叙述、説明、放送、意見などテキストのバリエーションを示し、必要に応じて支援を活用すれば意図や概要・要点を捉えられる、という形で示すイメージ。 資料編(3)P45(外㊺)

12. 高 科目の組替えや重点化の例

単位制の柔軟化の例として、英コミュⅠと論理・表現Ⅰを組み替えた「英語総合Ⅰ」という外国語科の組替え後科目の例や、英語コミュニケーションⅢで「社会的な話題」に重点を置くなど内容を選択的に扱う例が総論で示されている。 P44 P45

13. 高 専門学科の英語科目も見直し

主として専門学科で開設される英語の科目も、共通教科の改善の方向性を踏まえて必要な改善を行う。 P281 資料編(3)P24(外㉔)

14. 高 高校学習指導要領の改訂は令和9年度末予定

総論では、高等学校学習指導要領の改訂は令和9年度末を予定と書かれている。 P51

15. 英語の目標を「3つの柱」で示す

現行の英語の目標（高校は科目目標）は「聞くこと」など5つの領域別に書かれていた。次期は外国語の目標と同じように「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示す。領域ごとの細かい「できること」は「内容」の方へ移す。 P279 P280 資料編(3)P16(外⑯)

16. 「内容」を学年段階の目安つきの表で示す

領域別の目標の要素を「内容」に移し、話題や活動がだんだん高度になる様子を、「○学年相当」という目安とともに表形式で示す。学年ではっきり区切るのではなく、柔軟性を残した目安とする。表は「知・技」と「思・判・表」を並べる「並行」パターン。 P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P18(外⑱)

17. 「言語活動」から「コミュニケーション活動」へ

学習の中心を「コミュニケーション活動」（主に思・判・表を育てる）と「コミュニケーション活動を支える活動」（主に知・技を育てる）に分けて整理し、目標の柱書に書く。単元はコミュニケーション活動を中心にしながら、2つの活動を行き来して力を一体的に育てる。 P279 P284 資料編(3)P31(外㉛)

18. 「言語の使用場面」「言語の働き」の名前と置き場所が変わる

現行で「内容」にある言語活動・言語の使用場面・言語の働きの例は、「指導計画の作成と内容の取扱い」に移し、「コミュニケーション活動」「コミュニケーションの場面」「コミュニケーションの意図（仮称）」と呼ぶ。「内容」は資質・能力だけに絞る。 P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P37(外㊲)

19. 「統合的な理解」と「総合的な発揮」

知・技のゴールの姿を「統合的な理解」（英語のきまりを組み合わせて使うと理解や表現の質が高まると分かっている姿）として示す。思・判・表は「総合的な発揮」として、CEFRの分類を参考に「理解する」「表現する」「伝え合う」の3つに分けて書く。5領域をバランスよく育てる授業づくりをうながすねらい。 P280 資料編(3)P8(外⑧) 資料編(3)P9(外⑨)

20. 外国語の「見方・考え方」を新しく

「外国語及び外国語によるコミュニケーションを、文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、多様な他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考えを伝え、相互理解を図ること」と整理し直す（現行101字→91字）。AI時代に学ぶ意義と、人間ならではの非言語コミュニケーションも意識した表現。 P279 資料編(3)P7(外⑦)

21. 「学びに向かう力」を4つの要素に

①コミュニケーションへの興味・関心と伝えたい考えの形成、②対話・協働で考えを広げ深める態度、③自己イメージを持ち振り返りながら学習を調整する態度、④主体的に他者との相互理解を深めようとする心情、の4つに整理する。目標の文もこれに合わせて書き換える。 P279 資料編(3)P4(外④) 資料編(3)P5(外⑤) 資料編(3)P6(外⑥)

22. 「練習」という言葉を使わない

「練習」という言葉から思い浮かべるイメージが人によって違うことや、本文でこの語を使う教科がごく一部であることから、学習指導要領本文では「練習」を使わずに必要な活動を書く。 P284 資料編(3)P27(外㉗)

23. 中 高 「授業は英語で行うことを基本とする」考え方を維持

現行は「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」と定めている。審議まとめでは「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を堅持するとされた。そのうえで、国がクラスルームイングリッシュなどの表現集や動画を用意し、教師の補助的な日本語使用や、AI活用も含めた児童生徒の母語使用についての考え方を解説で示す。 P284

24. 国が「基盤語彙リスト」を作る

複数のコーパスなどを参考に、国が語彙選定のための基盤語彙リストを作り、教科書会社にリストの語を使うよう推奨する。語の難しさや使用頻度などから、指導すべき語彙数も精選を含めて見直す。高校の教科書の多様性は守り、リストは研究を続けて更新する。 P283 P61 資料編(3)P29(外㉙)

25. 自分のこと・地域・日本・自分の意見を伝える

話題や活動の例を見直し、自分のことや日本のことに加えて、自分の意見を言える活動を充実させ、住んでいる地域の話題も明確に位置付ける。AIや学校内外の交流も使い、自分が伝えたいことを伝える活動を強める。 P281 P10 資料編(3)P25(外㉕)

26. CEFRに照らしてレベルを点検

現行では、各校種で想定したCEFRレベル(小～A1程度、中A1～A2程度、高A2～B1程度)より高い内容が書かれている場合がある。今後は「内容」や活動例をCEFRに照らして適切な文言にし、教師の足場かけが前提のものは解説で趣旨を示す。 P283

27. 高 高校の科目名を変更する案

「英語コミュニケーション」は「英語コミュニケーション(総合)」、「論理・表現」は「英語コミュニケーション(発信)」に変える案(いずれも仮称)。科目の趣旨は引き継ぎ、趣旨に合った指導が行われるよう内容を充実させる。標準単位数の位置付けは現行相当(新単位で表すため数字は約2倍)。 P281 P80 資料編(3)P22(外㉒) 資料編(3)P24(外㉔)

28. 高 「英語コミュニケーション（発信）」の中身を充実

スピーチ、プレゼン、ディベート、ディスカッションに加えて「日常的な会話」を扱い、会話を続けたり発展させたりする力を育てる。「論理の構成や展開」の扱いを充実させ、書くことはプロセス重視の指導を強める。教材はコミュニケーション活動中心の単元構成に改める。 資料編(3)P23(外㉓) 資料編(3)P46(外㊻)

29. 高 B2レベル相当以上などの要件で必履修科目の免除・振替を提案

外部試験を使った必履修科目の免除･振替の制度運用を始めることが適当とされた。英語では、必要な英語力をCEFRのB2レベル相当以上とするのが適切とされた。ただしB2だけで自動的に免除されるわけではなく、(1)社会的信頼性のある外部試験で知識･技能の習得が確かめられる、(2)振替科目で総合的に代わりになる、(3)振り替えた方が大きく上回る成果が期待できる、の3つの要件をすべて満たす必要がある。具体的な外部試験の種類や級は今後、解説等で定める。免除した時間には発展的な学習や英語以外の外国語を学ぶ学校設定科目などを履修する。学校として実施できる場合の選択肢で、必ず免除しなければならないものではない。 P284 P48 P49

30. AIの適切な活用を学習指導要領に明記する方向

オンラインでの人との交流も含むデジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用も書くべきとされた。目標はあくまで人間同士のコミュニケーションで、AIを使った会話練習などはそのための手段という原則をはっきりさせる。 P278 P282 P88

31. 科学的知見にもとづく学び方の指導

第二言語習得や認知心理学、学習科学の知見を踏まえ、児童生徒が家庭学習も含めて自分で学習方略を使えるようにする。国が教師の指導や学習者に役立つ動画や資料を、学校の負担にも配慮して作る。 P278 P281 資料編(3)P15(外⑮)

32. 文化理解と「多様な外国語」

多様性の包摂や多文化共生のための文化理解、母語や自国の文化を見つめ直すための言語の違いの理解を充実させる。帰国生徒や外国につながる生徒の外国語の力を生かす配慮を外国語の解説にも書く。英語以外の外国語については、開設状況の公表やオンライン講座などを検討する。 P282 資料編(3)P26(外㉖) 資料編(3)P27(外㉗) 資料編(3)P28(外㉘)

33. 評価規準の作り方が楽になる
「内容のまとまりごとの評価規準例」は国が示し、学校での作成は不要とする方向。外国語の「内容のまとまり」は5つの領域とする方向。学校が作る単元の目標はそのまま評価規準となるようにし、「内容」を基に作る。P285
資料編(3)P38(外㊳) 資料編(3)P39(外㊴)

34. 教師を支える国の研修と資料
文部科学省が全国の教師向けに大規模なオンライン研修を行う。国が作る動画や資料は自治体の研修でそのまま使えるように作り、小学校向けは学級担任と専科教員それぞれのニーズに配慮する。ALTとの連携についての動画・資料も出す。P285

3 現行と次期の比較（新旧対照）

23項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
目標の柱書（学習の進め方）	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの「~~言語活動を通して~~」資質・能力を育成する（高校は「統合的な言語活動」も）。	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、「**コミュニケーション活動及びコミュニケーション活動を支える活動などを通して**」育成する。資料編(3)P1(外①) P279
英語の目標（高校は科目目標）の示し方	3つの柱で分けず、5つの領域（聞く・読む・話す[やり取り]・話す[発表]・書く）別にCAN-DO形式で示す。	外国語の目標と同じく「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の**3つの柱**で示す。領域別の要素は**「内容」へ**。P276 P279 P280 資料編(3)P16(外⑯)
学年ごとの目標	各学校が「~~学年ごとの目標を適切に定め~~」ることになっている（小：2学年間、中：3学年間を通じて目標の実現を図る）。	学習指導要領が段階的な内容を示すので、学年ごとの目標の**一律の作成義務はなくし**、必要な場合に**任意で作る**方向（審議まとめの案）。P280 資料編(3)P19(外⑲) 現行現行抜粋P6・P15・P25
見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、~~社会や世界、他者との関わり~~に着目して捉え、目的や場面、状況等に応じて、~~情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること~~（101字）。	外国語及び外国語によるコミュニケーションを、**文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、**多様な他者の考えを受け止める**とともに、**表現等を工夫して**自らの考えを伝え、**相互理解を図ること**（91字）。P279 資料編(3)P7(外⑦)
学びに向かう力、人間性等（高校の目標）	文化に対する理解を深め、聞き手等に配慮しながら、~~主体的、自律的に~~外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。	中学校の内容に加えて「**外国語の習得に継続して取り組もうとする**態度」を養う。資料編(3)P6(外⑥)
知識及び技能の目標の書き方	外国語の~~音声や語彙、表現、文法、言語の働きなど~~を理解し、聞く・読む・話す・書くことによる実際のコミュニケーションで活用できる技能（中）。	「**外国語の特徴やきまり**」を理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能。各言語材料や領域の列挙は目標から省いて短くする。資料編(3)P2(外②)
目標で扱う話題	中・高の目標に「~~日常的な話題や社会的な話題~~について」と書く。小学校外国語活動は「~~身近で簡単な事柄~~」。	目標では中学校「**様々な話題**」、高校「**幅広い話題**」とし、具体的な話題は「内容」で示す。小学校外国語活動は「**ごく身近な事柄**」、外国語は「身近な事柄」。資料編(3)P3(外③)
高校の話題	日常的な話題や~~社会的な話題~~。	中高の接続を考え、「**身近なものを含む社会的な話題**」とする。資料編(3)P22(外㉒) 資料編(3)P45(外㊺)

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
活動の名前	~~言語活動~~	**コミュニケーション活動**（主に思・判・表を育てる）と**コミュニケーション活動を支える活動**（主に知・技を育てる） P277 P279 P284 資料編(3)P31(外㉛)
言語の使用場面	「内容」の中に「~~言語の使用場面の例~~」として示す。	「**指導計画の作成と内容の取扱い**」に移し、「**コミュニケーションの場面**」として例示する。 P280 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P37(外㊲)
言語の働き	「内容」の中に「~~言語の働きの例~~」として示す。	「**コミュニケーションの意図（仮称）**」として例示する（例：相手との関係を円滑にする・気持ちを伝える／事実・情報を共有する・相手の行動を促す／考えや意図を共有する）。知・技の指導での扱い方も示す。 P280 資料編(3)P37(外㊲)
「内容」に入るもの	知・技（言語材料）、思・判・表、~~言語活動及び言語の働きに関する事項~~（言語活動・使用場面・働きの例）。	「内容」は**資質・能力に限る**。思・判・表は「**総合的な発揮**」と領域ごとの「話題・条件・できること」、知・技は「**統合的な理解**」と英語の特徴やきまりに関する事項。活動の例は「指導計画の作成と内容の取扱い」へ。 資料編(3)P16(外⑯) 資料編(3)P44(外㊹)
思考力、判断力、表現力等の示し方	~~5つの領域別の目標~~と、それを大まかにまとめた「内容」の思・判・表。重なりがあり、深まりが見えにくい。	「総合的な発揮」をCEFRの分類（Reception・Production・Interaction）を参考に**【理解する】【表現する】【伝え合う】**に分け、領域ごとの内容は学年段階の目安つきで示す。 P280 資料編(3)P8(外⑧)
高校の科目名	英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ／~~論理・表現~~Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	**英語コミュニケーション（総合）**Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ**（仮称）**／**英語コミュニケーション（発信）**Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ**（仮称）** P281 P80 資料編(3)P24(外㉔)
高校の単位数	英コミュⅠ3（必履修、2単位まで減可）、Ⅱ4、Ⅲ4、論理・表現Ⅰ2、Ⅱ2、Ⅲ2。1単位＝~~35~~コマ。	英コミュ（総合）Ⅰ6（必履修）、Ⅱ8、Ⅲ8、英コミュ（発信）Ⅰ4、Ⅱ4、Ⅲ4（**新単位**）。1**新単位**を**17コマ**として細分化するため、表示上の標準単位数は約2倍になる。科目ごとの標準的な学習量は現行とおおむね同程度（1単位35コマの半分は17.5コマだが**17コマ**とするため、コマ数はわずかに減る）。 P80 P81 P82 資料編(3)P24(外㉔) 現行標準単位数表
語彙	~~語数の目安だけ~~（小600～700語、中1,600～1,800語程度の新語、高1,800～2,500語程度、合計4,000～5,000語）。リストはない。	国が**基盤語彙リスト**を作り、教科書でリストの語を使うよう推奨。指導すべき語彙数も**精選**を含めて見直す（合計は「●語程度」とされ未定）。 P283 資料編(3)P29(外㉙) 現行現行抜粋P11・P21・P3
AIの扱い	学習指導要領にAI活用の位置付けがない。	デジタル学習基盤の活用を明記し、その一つとして発達の段階に応じた**AIの適切な活用**を書く。**人間同士のコミュニケーション**を充実させるという原則を明確に。 P277 P278 P282
評価規準の作り方	各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作る。外国語は領域別目標が3つの柱で整理されておらず、作業が煩雑。	内容のまとまりごとの評価規準例は**国が示し**、学校の**作成は不要**。外国語の「内容のまとまり」は**5つの領域**とする方向。単元の目標が**そのまま評価規準**になるようにし、「内容」を基に作る。 P285 資料編(3)P38(外㊳) 資料編(3)P39(外㊴)
高校必履修科目の履修免除	仕組みなし（外部検定の学修成果を単位認定する制度は36単位まで）。	外部試験を使った**免除・振替**の制度運用を開始することが適当とされた（審議まとめの案）。英語はCEFR **B2レベル相当以上**が目安とされたが、3つの要件をすべて満たす必要があり、具体的な試験や級は今後解説等で定める。免除対象は英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）。 P48 P49 P284

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
授業の言語と母語使用	中・高とも「授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いる」。	「授業を生徒の理解に応じた英語で行うこと」を**堅持**。表現集・動画を国が提供し、教師の**補助的な日本語使用**やAI活用も含めた**母語使用**の考え方を解説で示す。 P284 現行現行抜粋P26・P46
「練習」という語	本文に「言語材料について理解したり~~練習~~したりするための指導を必要に応じて行う」などの記述がある（高校の音声指導も「発音~~練習~~など」）。	「練習」という文言は使わずに必要な活動を書く（例：音声指導は「**コミュニケーション活動を支える活動**などを通して」）。 P284 資料編(3)P27(外㉗) 現行現行抜粋P26
論理・表現（発信）の活動	スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなど。	これらに加えて「**日常的な会話**」を扱う。「書くこと」に**やり取り**（オンライン上で書いて伝え合う）を位置付け、論理の構成・展開を充実。 資料編(3)P22(外㉒) 資料編(3)P23(外㉓) 資料編(3)P46(外㊻)
教材に関する留意事項（文化）	多様な考え方への理解、我が国の文化や英語の背景にある文化、国際理解の観点。	これらに「**多様性の包摂**」「**多文化共生**に対する理解」を加え、話題・活動にも明示する。 P282 資料編(3)P25(外㉕) 資料編(3)P26(外㉖) 資料編(3)P27(外㉗)

4 目標の新旧（現状→改善イメージ）

資料編の外①（柱書）、外②（知識及び技能）、外③（思考力、判断力、表現力等）、外⑥（学びに向かう力、人間性等）の「現状」と「改善イメージ」の対照表を要約した。いずれも外国語の目標で、「告示や解説を示すにあたり引き続き検討」と注記されている。英語の目標・高校の科目目標のイメージは外㊶～㊽にある。

校種・観点	現行	次期（改善イメージ）
高等学校 柱書	言語活動及び統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする資質・能力を育成。	中学校と同じ文。段階の違いは3つの柱の目標で示す。 資料編(3)P1(外①)
高等学校 知識及び技能	理解を深め、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。	外国語の特徴やきまりの理解を深め、実際のコミュニケーションで適切に活用できる技能を身に付ける。 資料編(3)P2(外②)
高等学校 思考力、判断力、表現力等	日常的な話題や社会的な話題について、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力。	幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりする力。 資料編(3)P3(外③)
高等学校 学びに向かう力、人間性等	文化への理解を深め、聞き手等に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度。	中学校の内容に加え、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度。 資料編(3)P6(外⑥)

5 語彙（単語の数）はどうなる？

現行の語数の目安

- **高（英コミュⅠ）**：小中で学習した語に400～600語程度の新語
- **高（英コミュⅡ）**：英コミュⅠの語に700～950語程度の新語
- **高（英コミュⅢ）**：英コミュⅡの語に700～950語程度の新語
- **高（合計）**：1,800～2,500語
- **小中高合計**：4,000～5,000語（リストなし）

次期：国が「基盤語彙リスト」を作る方向

国が複数のコーパスを参照するなどして「基盤語彙リスト」を作り、教科書会社にリストの語を教科書で使うよう推奨する。語の難しさ（CEFRレベル等）や使用頻度にもとづく重要度（カタカナ語との対応なども含む）を考えて優先順位を付け、小・中・高への振り分けを検討する。その際、他のアジア諸国の状況も参考にする。指導すべき語彙数は、精選も含めて見直す（改善イメージでは合計「●語程度」とされ、数はまだ決まっていない）。ねらいは、教科書の語彙の難しさと選び方をならし、負担を適正にして、使用頻度の高い重要な語彙を様々な場面で繰り返し扱って身に付けさせること。高校は生徒の実態がさまざまなので教科書の多様性を守り、小中も難しくなりすぎないようにしながら多様な話題を扱えるよう配慮する。リストは必要に応じて更新できるよう継続的に調査研究する。入試や調査の作問に役立つよう、各教科書の新出語彙リストは電子データで提供されるべきとされた。

6 CEFRレベルの目安

高：A2～B1程度（同上）。現行の高校の科目はおおむねA2～B1レベル相当の習得を念頭に設定し、今回も大きく変えない。R6調査でA2レベル相当以上は51.6%（H25は31.0%） P283 P284 P49 P276

高（履修免除）：必履修科目の免除に必要な英語力はB2レベル相当以上とするのが適切とされた（ほかの要件もすべて満たす必要があり、B2だけで免除されるわけではない） P49 P284

7 高校の科目と単位（現行→次期）

現行		
英語コミュニケーションⅠ【必履修】	3単位	2単位まで減可
英語コミュニケーションⅡ	4単位	
英語コミュニケーションⅢ	4単位	
論理・表現Ⅰ	2単位	
論理・表現Ⅱ	2単位	

次期（案・仮称）		
英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）【必履修】	6新単位	5領域を総合的に扱い、領域統合を一層強化
英語コミュニケーション（総合）Ⅱ（仮称）	8新単位	
英語コミュニケーション（総合）Ⅲ（仮称）	8新単位	
英語コミュニケーション（発信）Ⅰ（仮称）	4新単位	論理・表現の趣旨を維持しつつ発信力を一層強化
英語コミュニケーション（発信）Ⅱ（仮称）	4新単位	

現行		
論理・表現III	2単位	

次期（案・仮称）		
英語コミュニケーション（発信）III（仮称）	4新単位	

次期は1単位の学習量を35コマから17コマに細分化した「新単位」で表す。外国語科は「必履修科目の単位数等に変化なし」「単位数は現行と同様」とされている（3単位→6新単位）。高校全体の必履修単位は38単位（76新単位）から最大78新単位になるが、学習コマ数は1330コマ→1326コマとわずかに減る。

必履修科目の履修免除（B2相当以上）

高校の必履修科目について、外部試験を使った免除・振替の制度運用をまず外国語と数学で始めることが提案された（審議まとめ段階）。要件は、(1)社会的信頼性のある外部試験の合格で免除科目の知識・技能がおおむね習得されていると判断できる、(2)振替科目の履修で教科の目標に向けて発展的に育成でき総合的な代替性がある、(3)その生徒にとって振り替えた方が資質・能力の育成で大きく上回る成果が期待できる、の3つすべて。外国語では、現行の高校の科目がおおむねCEFR A2～B1レベル相当の習得を念頭に置いており今回も大きく変えないため、それを大きく上回るB2レベル相当以上が必要とされた（それを証する社会的信頼性のある外部試験が対象）。免除の対象は英語コミュニケーション（総合）I（仮称）。振替先は、その時間に置く発展的な学習や英語以外の外国語の学校設定科目、条件が整えば上位科目（英コミュ（総合）II・III（仮称））や学校外学修（大学の授業、各言語の専門機関の講座、海外のサマースクール等）。免除科目と同じ単位数を振替科目で修得する必要がある。学校として実施できる場合の選択肢であり、要件を満たす生徒がいても必ず免除しなければならないものではない。外部試験の種類や必要な級などは解説等で具体的に定める。

8 評価はどう変わる？

1. 評価規準例は国が示し、学校での作成は不要にする方向

現行は各学校が①内容のまとまりごとの評価規準、②単元の目標、③単元の評価規準を作っている。審議まとめでは「内容のまとまりごとの評価規準例」を国が示し、学校の作成は不要にする方向が示された。P285

2. 外国語の「内容のまとまり」は5つの領域

外国語の特質から引き続き5つの領域（聞く・読む・話す[やり取り]・話す[発表]・書く）で評価することが重要とされ、国の評価規準例の「内容のまとまり」は「内容」に示す5つの領域とする方向で検討する。P285 資料編(3)P39(外㊴)

3. 単元の目標＝評価規準

学校が作る単元の目標はそのまま評価規準となるようにする。作るときは外国語の目標・英語の目標（高校は科目目標）を踏まえつつ「内容」を基にする。P285 資料編(3)P38(外㊳)

4. 評価が煩雑だった理由が解消される

現行は領域別の目標が3つの柱で整理されておらず、「内容」も領域別でないため評価の手順が煩雑だったが、今回の構造化で改善されると考えられている。多くの教科と同じように「内容」から評価規準を作れるようになる。P280 P285

5. 「統合的な理解」「総合的な発揮」は当面直接評価しない

当面は「統合的な理解」「総合的な発揮」の育成状況そのものを一律に直接評価することは求めず、単元構想を含む指導・評価の計画の質を支える役割とする。資料編(3)P40(外㊵)

6. 知・技と思・判・表を同じテストで評価できる

知・技と思・判・表を同じパフォーマンステストなどで評価することも引き続き可能（具体は評価参考資料の作成時に検討）。単元例でも同一のパフォーマンステストで評価する例が示されている。資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P40(外㊵)

7. 総括は頻度を抑え、形成的評価を充実

学習成果の観点別評価・評定への総括は、学年末に絞るなど頻度を抑え、学習途中で差分を見取ってフィードバックする形成的評価を充実する（全教科共通の再整理案）。資料編(3)P38(外㊳)

8. 学びに向かう力は「見取る姿」で長い期間に

学びに向かう力の「見取る姿」は単元ごとではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取る。「見取る姿」や運用方法は小中について令和10年度末までに周知するとされている。資料編(3)P13(外⑬) P65

9. MEXCBTとAIパフォーマンステスト
各学校の定期テストやパフォーマンステストに使えるよう、MEXCBTにCEFRを参照した問題を充実させ、AIを使ったパフォーマンステストツールの可能性を検討する。P285

10. 全国学力・学習状況調査の作問
今後の全国学力・学習状況調査は、CEFRレベルを勘案しつつ、個別の資質・能力に基づいて作問する。P283

11. デジタル学習指導要領で評価規準例を一括確認
資料編の単元づくりのイメージでは、デジタル学習指導要領で解説の記述や評価規準例、小学校を含む前後の学習内容も確認できる姿が描かれている。資料編(3)P12(外⑫)

9 国が用意するもの（支援）

1. 学習方略の動画・資料
第二言語習得・認知心理学・学習科学の知見を踏まえ、教師の指導や学習者の参考になる動画・資料を国が提供する。学校の負担軽減に留意し、教師の指導や自治体の研修でも使えるように作る。P281

2. AI活用の留意点・動画・資料
適切でない使い方も含めた留意点、動画・資料を国が具体的に示し、技術の発展に応じて更新する。外国語でのAI活用の考え方や実践事例も示す。P282 P88

3. クラスルームイングリッシュ等の表現集・動画
生徒の理解に応じた英語で指導する際に使える表現集（クラスルームイングリッシュ等）や動画を提供する。P284

4. 全国の教師向け大規模オンライン研修
改訂で重視する点を伝え、英語力・指導力の向上と継続的な授業改善を図るため、文部科学省が大規模なオンライン研修を行う。P285

5. 研修にそのまま使える動画・資料
国が作る動画・資料は自治体の教員研修でそのまま使えるようにし、教職課程でも使われることを念頭に作る。小学校向けは学級担任と専科教員それぞれのニーズに配慮する。P285

6. ALT等との連携の動画・資料
ALT等との効果的な連携のあり方について参考となる動画や資料を提供する。P285

7. 英語資格・検定試験の特別受験制度の周知
検定団体が教師や教職課程の学生向けに受験料を減額するなどの特別受験制度について、学生の活用が進むよう一層周知する。P285

8. 教員養成のコアカリキュラム改善
教員免許制度の見直しを踏まえた外国語（英語）コアカリキュラムの改善で、科学的知見や学習方略の指導方法を学べるようにする。P285

9. MEXCBTの問題充実
定期テストやパフォーマンステストに使えるよう、MEXCBTにCEFRを参照した問題を充実させる。P285

10. 国の評価規準例
「内容のまとまりごとの評価規準例」を国が評価の参考資料で示す。P285

11. 基盤語彙リストと新出語彙リストの電子データ
国が基盤語彙リストを作る。各教科書の新出語彙リストは入試や調査の作問に役立つよう電子データで提供されるべきとされた。P283 資料編(3)P29(外㉙)

12. Let's Try!の見直し
国が作成・配布している外国語活動教材Let's Try!を、身近で楽しい内容、5・6年につながる段階的な活動に見直す。資料編(3)P17(外⑰)

13. 教育課程特例校の実践事例の提供
教育課程特例校1,915校（令和7年4月時点）のうち1,483校が外国語に関する内容。制度が調整授業時数制度に統合されることを踏まえ、参照できる実践事例を教育委員会等に積極的に提供する。
P284 P36

14. 多様な外国語の学びの支援
各校の開設状況の公表と共有、教師の指導力向上・学習者同士の交流・オンライン講座の開設などの可能性の検討、大学が公表している教材などの資料の収集・公表を行う。P282

15. 外国語を使う機会の充実
英語キャンプ、英語での探究、海外校との交流、海外留学、ALT等の配置拡充など、先行事例の成果を共有し各地方の取組を推進する。P285 資料編(3)P15(外⑮)

16. デジタル学習指導要領
資料編のイメージでは、デジタル学習指導要領で解説や評価規準例、他教科や小学校を含む前後の学習内容を確認できる。資料編(3)P12(外⑫)

10 生成AI・ICTとの付き合い方

13項目

1. AI活用を学習指導要領に明記
オンラインでの人との交流などを含むデジタル学習基盤の活用を外国語の学習指導要領等に明記し、その一つとして発達の段階に応じたAIの適切な活用も書く。指導の参考となる考え方や実践事例も具体的に示す。P278 P282 P88

2. 原則：目標は人間同士のコミュニケーション
最終目標は外国語による人間同士のコミュニケーションを図る資質・能力で、AIを使った会話練習などはそのための手段。児童生徒の学びを深め、人間同士のコミュニケーションの充実につなげるという原則をはっきりさせる。P282

3. AIの出力を鵜呑みにさせない
自分の興味・関心に応じた例文をAIで作るなどは有効と考えられる。ただし、児童生徒がAIの生成物を鵜呑みにせず、出力を吟味しながら自分の学習に生かせるよう教師が支援することが重要。P282

4. 家庭学習の出し方に注意
単純な英作文など、単にAI翻訳を提出すれば済むような家庭学習の課題を出さないなどの注意が必要とされた。P282

5. 国が留意点・動画・資料を示し更新する
諸外国の例も参考に、授業内外でのAIの効果的な使い方について、適切でない使い方を含む留意点や動画・資料を国が具体的に示し、技術の発展に合わせて更新する。P282

6. 話す量を増やす道具として
AIの活用で、恥ずかしがらずに話すことなどの練習量を大幅に増やす。家庭学習と連携して発話時間を確保する。資料編(3)P15(外⑮)

7. 言いたいことを英語にする活動
AIで自分が言いたいこと(母語)を英語にする活動を強化することが、英語で伝えたい内容を整理・発信する活動の充実策の一つとして挙げられている。資料編(3)P15(外⑮)

8. 交流の機会をつくる
児童生徒が英語で伝えたいことのイメージを持てるよう、AIや学校内外での交流機会を使いながら、自分が伝えたいことを伝える活動を強める。P281

9. 母語使用の考え方にAIも含めて示す
教師の補助的な日本語使用や、発達の段階に応じたAIの活用も含めた児童生徒の母語使用について、参考となる考え方を解説で示す。P284

10. 発信科目のフィードバックにAI
英コミュ(発信)(仮称)では、個別のフィードバックが物理的に難しいという課題に対し、AIを含むデジタル学習基盤の活用も含めたフィードバックの工夫を解説等で示す。資料編(3)P23(外㉓)

11. AIを使ったパフォーマンステストの検討
AIを活用したパフォーマンステストツールの可能性を検討すべきとされた。P285

12. AI時代でも相応の英語力は必要
AIで手軽に翻訳・通訳できる中でも、出力の正確さ・適切さを批判的に検討したり、ツールも使いながらリアルなコミュニケーションをしたりするには相応の英語力が必要という視点、AIを効果的に使う力が必要という視点が示されている。資料編(3)P14(外⑭)

13. AI時代の教師の役割
授業デザイン、児童生徒の学ぶ意欲の向上、自律的な学習者を育てる学び方の指導などがより重要になる。人間同士のリアルなコミュニケーションが大切になることも踏まえる。P285

11 今からできる準備チェックリスト

20項目

- [ ] 今すぐ 自分の単元を、「コミュニケーション活動」(目的・場面・状況に応じて理解・表現・伝え合う)と「それを支える活動」(語彙や文法を理解し使う)に分けて見直し、両者を行き来する流れになっているか確かめる。P284 資料編(3)P31(外㉛) 資料編(3)P34(外㉞)
- [ ] 今すぐ 単元の初めに「コミュニケーションを行う目的・場面・状況」を具体的に設定して生徒と共有する(例:日本に来たことがない海外の生徒に、住んでいる町の食べ物を紹介する)。資料編(3)P12(外⑫) 資料編(3)P13(外⑬) 資料編(3)P31(外㉛)

- [ ] 今すぐ 同じ表現でも場面によって意図が変わることを意識させる（例：Can you ～？ が質問にも依頼にも誘いにもなる）。似た意味の既習表現を整理して使えるようにする。 資料編（3）P37（外㊲）

- [ ] 今すぐ 導入したばかりの語彙や文法をすぐ話せる・書けることを求めず、聞く・読むで理解する段階から話す・書く段階へ進める計画にする。 資料編（3）P34（外㉞） 資料編（3）P35（外㉟） 資料編（3）P36（外㊱）

- [ ] 今すぐ 自分のこと・地域のこと・日本のこと・自分の意見を伝える活動を単元に入れる（例：地域のおすすめの場所を留学生に紹介、校則について意見を発表）。 P281 資料編（3）P25（外㉕）

- [ ] 今すぐ 家庭学習の課題を見直し、単純な英作文などAI翻訳を出せば済むような課題になっていないか確かめる。 P282

- [ ] 今すぐ 授業でAIを使う場合は、例文の生成などに使っても出力を鵜呑みにさせず吟味させ、最後は人間同士のやり取りにつなげる設計にする。使う前に、学校・教育委員会が認めた環境かどうか、利用規約・年齢制限・必要な保護者の同意を確かめ、氏名や写真などの個人情報は入力させない。 P282

- [ ] 今すぐ 英語の学び方（学習方略）を授業で指導し、生徒が家庭学習でも自分で学習を調整できるようにする。高3の6割が学習方法が分からないという調査結果がある。 P281 資料編（3）P15（外⑮）

- [ ] 今すぐ 授業は生徒の理解に応じた英語で行うことを続ける。補助的な日本語使用や母語使用の考え方は今後の解説で示されるので、それを確認する。 P284

- [ ] 今すぐ 入学初期に生徒の学習状況を把握し、中学校の既習事項を繰り返し使いながら思考・判断・表現を発揮する活動を組む。 P281

- [ ] 今すぐ 論理・表現の授業が文法解説と問題演習中心になっていないか見直し、スピーチ・ディベート等で英語を使う機会を増やす。 P277 資料編（3）P23（外㉓）

- [ ] 今すぐ 英コミュで読んだ・聞いた話題や言語材料を、論理・表現でも使うよう、担当者同士で年間計画をすり合わせる（科目間のカリキュラム・マネジメント）。 資料編（3）P22（外㉒）

- [ ] 今すぐ 英コミュで、読んだり聞いたりしたことを基に話す・書く領域統合の活動を増やす。 資料編（3）P23（外㉓）

- [ ] 全面実施まで 英コミュ（発信）（仮称）に向けて、日常的な会話を続ける・発展させる指導、書くことのプロセス重視の指導、論理の構成・展開の指導を準備する。 資料編（3）P23（外㉓） 資料編（3）P46（外㊻）

- [ ] 解説等の公表後 履修免除（B2レベル相当以上などの要件）の対象外部試験や必要な級、振替科目は解説等で定まるので、公表されたら確認してから校内で実施できるか検討する。実施は学校の判断による選択肢。 P48 P49 P284

- [ ] 全面実施まで 評価は5つの領域を「内容のまとまり」とし、単元の目標をそのまま評価規準にする形に移る方向なので、国の評価規準例が出たら単元計画の作り方を合わせる。 P285 資料編（3）P38（外㊳） 資料編（3）P39（外㊴）

- [ ] 今すぐ パフォーマンステストで知・技と思・判・表を同じ課題で見取る形を試す（引き続き可能とされている）。 資料編（3）P13（外⑬） 資料編（3）P40（外㊵）

- [ ] 今すぐ ALTやオンラインでの海外校との交流など、人間同士のリアルなコミュニケーションの機会を単元に組み込む。 P285 資料編（3）P13（外⑬） 資料編（3）P15（外⑮）

- [ ] 今すぐ 帰国生徒や外国につながる児童生徒の外国語の力を、授業で生かせるよう配慮する。 P282

- [ ] 全面実施まで 国が行う大規模オンライン研修や、動画・資料、表現集が出たら活用する。 P284 P285

12 次期を先取りする授業アイデア

13本

高1（4〜5月）英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）　1単位時間（50分）

中学の英語で十分伝わる！自己紹介アップデート

高1の4月、中学校の既習事項を使い倒して自分を語り直し、学習状況もつかみます。

手順・ワークシート

ねらい

中学校で学んだ表現を組み合わせて、相手に興味をもってもらえるように自分のことを話したり書いたりすることができる。

流れ

- **5分** 先生が、中学校の文法を意図的に入れた自己紹介をします。生徒は聞いて、知っている文法をいくつ見つけられるかを数えます。
- **5分** 見つけた文法（現在完了、関係代名詞の省略、過去形、比較など）を全体で確かめ、すべて中学校の英語でできていることを伝えます。
- **12分** 材料リストを見て、自己紹介に使う文を4〜5文準備します。少なくとも3種類の文法を使うことを目標にします。
- **15分** 相手を替えて3回、自己紹介と質問のやり取りを行います（各3分）。聞き手は質問カードを参考に、少なくとも2つ追加の質問をします。先生は巡回しながら、教師用メモに学習状況を記録します。
- **10分** やり取りで受けた質問への答えも加え、自己紹介を80語程度で書きます。
- **3分** 「中学校の英語で言えたこと」「言えなかったこと」を振り返り、高校での英語学習の目標を一文で書きます。

評価

【知識・技能】中学校の既習の文法を正しく使っているかを、書いた自己紹介で見取ります。この時期は評定よりも、つまずきの把握と指導の調整に重点を置きます。【思考・判断・表現】相手の質問を受けて内容を付け足しているかを、やり取りの観察で見取ります。

高1 英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）　2単位時間（50分×2）

読んで終わりにしない！読む→話す→書く

読んだ内容を基に、話して考えを深め、書いてまとめる。領域統合の基本の型です。

手順・ワークシート

ねらい

身近なものを含む社会的な話題の文章から要点を捉え、それを基に自分の考えを形成して、友達と伝え合い、まとまりのある文章で書くことができる。

流れ

10分 【1時間目】話題に関する写真を見せ、生徒の経験を聞きます。

20分 本文を読み、概要から要点へと順に捉えます。要点整理シートに「問題」「原因」「取り組み」を英語の語句でまとめ、ペアで確認します。

20分 要点整理シートのキーワードだけを見ながら、本文の内容を自分の言葉で相手に説明します（リテリング）。聞き手は内容が正しいかを確かめ、足りない点を補います。

20分 【2時間目】4人班で「自分たちの家庭や学校でできることは何か」を話し合います。役割カードを使い、全員が意見と理由を言うようにします。

20分 話し合いを踏まえ、本文の要点と自分の考えを含む文章（100語程度）を書きます。本文の表現を引用したり言い換えたりして使ってよいことにします。

10分 ペアで読み合い、「本文の要点が正しく入っているか」「自分の考えと理由がはっきりしているか」をチェックし、振り返ります。

評価

【思考・判断・表現】本文の要点を捉え、それを基に自分の考えを形成して、理由とともに書いているかを、最後の文章で見取ります。
【知識・技能】本文の語句や表現を、自分の考えを伝えるために適切に使っているかを、同じ文章やリテリングで見取ります。

高1・2 英語コミュニケーション（発信）Ⅰ（仮称）　20分（帯活動）

会話が止まらない！聞き返し・つなぎ方トレーニング

聞き返す・確かめる・広げる。会話を続ける方略を、毎時間の帯活動で身に付けます。

手順・ワークシート

ねらい

日常的な話題について、聞き返す・確かめる・話を広げるなどの方略を使い、相手とのやり取りを続けたり発展させたりすることができる。

流れ

3分 先生とALT（または生徒）で、会話が途中で止まる例と、方略を使って続く例を見せ、違いを考えさせます。

3分 今日使う方略を2つ（例：確かめる、広げる）に絞り、全体で言い方と言うタイミングを確かめます。

6分 ペアで話題カードを引き、2分間の会話を2回行います。その日の方略を少なくとも2回使うことを目標にし、端末で録音します。

5分 録音を聞き返し、方略を使えた場面と、沈黙してしまった場面を見つけます。「その場面でどの方略が使えたか」をペアで考えます。

3分 相手を替えて同じ話題でもう一度会話し、改善を試します。最後に振り返りシートに記録します。

評価

【思考・判断・表現】方略を使って相手の発話を確かめたり話を広げたりしながら、やり取りを続けているかを、録音や観察で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】録音を聞いて自分の課題を見つけ、次の会話で改善しようとしている姿を、振り返りシートで学期を通して見取ります。

高2 英語コミュニケーション(発信) II (仮称)　2単位時間(50分×2)

わたしたちの町、どうする？地域課題ミニディベート

地域の課題を論題に、根拠を集めて主張し、相手の主張に応じます。

手順・ワークシート

ねらい

地域の課題について、読んだり聞いたりして得た情報を根拠に主張を述べ、相手の主張を受け止めて反論したり応じたりすることができる。

流れ

10分 【1時間目】論題を示し、自分たちの生活とどう関わるかを話し合います。

25分 肯定側・否定側の班に分かれ、資料カードを読んで根拠を集めます。主張→理由→根拠→まとめの構成で、立論メモを作ります。

15分 予想される反論とその答えを準備し、班の中で立論を声に出して試します。聞き手を見ること、主張のあとに間をとること、強調したい語の言い方も確かめます。

30分 【2時間目】ミニディベートを行います(立論各2分→作戦タイム1分→反論各2分→まとめ各1分)。聞き手はフローシートに双方の要点を記録します。

15分 聞き手が、どちらの主張に説得力があったかを、理由とともに英語で発表します。

5分 「相手の主張を受け止めて応じられた場面」と「次に工夫したいこと」を振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】資料から得た情報を根拠に、構成を工夫して主張を述べ、相手の主張に応じて反論しているかを、ディベートとフローシートで見取ります。【知識・技能】主張や反論、論理の展開を示す表現を適切に使っているかを、同じ活動の中で見取ります。

高2 英語コミュニケーション(発信) II (仮称)　2単位時間(50分×2)

AIの添削、採用する？しない？意見文の書き直し

まず自分で書き、AIの提案を理由付きで取捨選択し、最後は仲間に読んでもらいます。

手順・ワークシート

ねらい

自分で書いた意見文に対するAIの提案を吟味し、理由をもって取捨選択しながら、構成や表現を工夫して書き直すことができる。

流れ

30分 【1時間目】構成メモ(主張・理由2つ・例・結論)を作り、AIを使わずに自分で初稿(120語程度)を書きます。初稿は必ず保存し、提出します。

20分 先生がAIへの依頼文の例を示します(例:「この英文の文法の誤りを指摘して、理由を説明してください。書き直した全文は出さないでください」)。生徒は初稿を入力して提案を受け取ります。入力に個人情報を入れないことを確認します。

25分 【2時間目】記録表に、AIの提案を一つずつ書き出し、「採用する／しない」とその理由を書きます(例:意味が変わってしまう、自分の言いたいことと違う、習った文法で正しく書けている)。判断に迷う提案は、辞書や文法書で確かめます。

15分 書き直した第2稿をペアで読み合い、「主張がはっきりしているか」「理由と例が合っているか」など、内容面を中心に人の目でコメントし合います。

10分 コメントを踏まえて最終稿を仕上げ、初稿と最終稿を比べて「自分で直せるようになりたい誤り」を一つ書きます。

評価

【思考・判断・表現】主張・理由・例を整理し、構成や表現を工夫して意見を書いているかを、最終稿で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】AIの提案を理由をもって取捨選択し、自分の課題を見つけて次に生かそうとする姿を、記録表と振り返りで見取ります。AIが整えた部分を生徒の力と取り違えないよう、初稿から最終稿までの過程を合わせて見ます。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜外国語（英語）（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

高1・2　3単位時間（準備2時間＋交流1時間）

画面の向こうの高校生と、地域の「ふつう」を比べよう

オンライン交流で地域の暮らしを紹介し合い、共通点と違いから話を広げます。

手順・ワークシート

ねらい

地域の暮らしの特徴を相手に分かりやすく紹介し、相手の話との共通点や違いに着目して質問したり感想を伝えたりすることができる。

流れ

30分 【1時間目】「自分たちの地域では当たり前のこと」を出し合い、海外の高校生に紹介したいものを班で選びます（例：通学方法、祭り、地元の食べ物、天気）。

20分 写真を中心にしたスライドを作り、1班2分の紹介を準備します。原稿を読むのではなく、キーワードだけを見て話せるようにします。

30分 【2時間目】リハーサルをし、聞き手の班が「声の大きさ」「カメラへの視線」「間の取り方」「表情」についてフィードバックします。相手の地域について事前に調べ、質問を3つ準備します。

20分 聞き取れなかったときの聞き返し方（Could you say that again? / Do you mean ～?）や、共通点・違いを伝える表現（We have something similar. / We don’t have that in our town. / Things are different in our town.）を確かめます。

40分 【3時間目】交流本番です。紹介し合ったあと、準備した質問やその場で思いついた質問で、やり取りを広げます。

10分 交流後、「伝わったこと」「伝わらなかったこと」「次に伝えたいこと」を振り返り、相手校へのお礼のメッセージを英語で書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手の紹介との共通点や違いに着目して質問や感想を伝え、やり取りを広げているかを、交流の様子（録画する場合は相手校の同意を得たうえで）や振り返りで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】伝わらなかった場面で言い換えたり身振りを交えたりして、粘り強く伝えようとする姿を見取ります。

高2・3　1単位時間（50分）

AI翻訳で消える「気持ち」を探せ

日本語のあいまいさや気配りがAI翻訳でどう変わるかを比べ、自分で英文を書き直します。

手順・ワークシート

ねらい

日本語のメッセージとAI翻訳の英文を比べ、相手との関係や場面に合っているかを判断し、意図が伝わるよう自分で英文を書き直すことができる。

流れ

5分 「その日はちょっと…」という日本語を見せ、本当は何を言いたいのかを全員で確かめます。言葉にしていない部分（断り、相手への気配り、次への期待）に気付かせます。

12分 翻訳ツールの英文を読み、ペアで「伝わっていること」「伝わっていないこと・誤解されそうなこと」を比較シートに書きます。英語の話者がこの英文を受け取ったらどう感じるかを考えます。

8分 ALTがいる場合は、AI翻訳の英文を読んだ印象を聞きます（いない場合は、先生が英語の受け手の立場から説明します）。

15分 相手との関係や場面に合わせて、意図が伝わる英文を自分たちで書き直します（例：断ることははっきり伝えつつ、感謝と次への期待を添える）。班で書いた案を比べ、どれが相手にとって分かりやすく失礼でないかを話し合います。

10分 「日本語で当たり前にしていること」と「英語で伝えるときに必要な工夫」を全体でまとめ、振り返りを書きます。

評価

【思考・判断・表現】場面や相手との関係を踏まえてAI翻訳の適切さを判断し、意図が伝わるように英文を書き直しているかを、比較シートと書き直した英文で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】日本語と英語の伝え方の違いに気付き、自分の表現を見直そうとする姿を振り返りで見取ります。

高1〜3　1単位時間（50分）＋学期ごとの振り返り

卒業後も伸び続ける！わたしの英語学習デザイン

「英語を使う自分」を思い描き、目標・方法・振り返りを自分で設計します。

手順・ワークシート

ねらい

英語を使う将来の自分を思い描いて目標を立て、目標に合った学習方法を選んで計画し、定期的に振り返って調整することができる。

流れ

8分 先生が「英語を使っている自分」の具体的な場面を語ります。続いて、生徒も5年後に英語を使っていそうな場面を思い描き、ペアで話します。

7分 その場面に必要な力（聞く・読む・話す・書くのどれか）を考え、今学期の目標を一つ、具体的な行動の形で書きます（例：英語のニュースを毎日1本聞き、要点を1文でメモする）。

12分 学習方法カードを班で読み、自分の目標に合う方法を2つ選びます。選んだ理由をペアに英語で説明します。

10分 学習デザインシートに、いつ・どこで・どのくらい行うか、つまずいたときにどうするか（例：疲れた日は5分だけ音読する）を書きます。

8分 班で計画を見せ合い、「続けられそうか」「目標に合っているか」をアドバイスし合います。

5分 2週間後と学期末の振り返りの日を決め、記録の付け方を確かめます。振り返りの日には、うまくいったこと・変えることを書き、計画を修正します。

評価

【主体的に学習に取り組む態度】自己イメージに基づいて目標を立て、学習方法を選び、振り返りを基に計画を修正しようとしている姿を、学習デザインシートの記述で学期・学年を通して見取ります。学習時間の長さそのものは評価しません。

高1 英語コミュニケーション(総合)Ⅰ(仮称)　1単位時間(50分)　生成AIの使い方つき

考えは日本語で深く、伝えるのは自分の英語で

まず日本語で意見をしっかり言語化し、英語にしにくい1～2文だけAIに候補を出させ、自分の言葉にしてディスカッションします。

手順・ワークシート

ねらい

身近な話題について自分の意見と理由を整理し、既習の表現に言い換えながら、ディスカッションで意見を伝えたり、相手の意見に応じたりすることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】論題を示し、紙の本派・電子書籍派で手を挙げさせます。先生が自分の読書習慣を英語で短く話します。

10分 【AIを使わない】日本語で意見マップをじっくり書きます。「なぜそう思うのか」「自分の経験では」「反対の人は何と言いそうか」まで掘り下げます。ここでは英語を気にせず、考えを深めることに集中させます。

10分 【AIを使う】マップの中から「英語で言いにくい1～2文」だけを選び、AIに頼み方の例のとおり入力します。出てきた3通りの中から自分が言えるものを選び、さらに知っている語に直します。マップ全体の翻訳はしません。入力に個人情報を入れないことを確認します。

5分 全体で、AIの候補をどう直したかを何人かに紹介してもらいます(例:「目が疲れにくい」→ AI案 It causes less eye strain. → 自分の英語 My eyes don't get tired.)。「長い一文を二つに分ける」「知っている動詞で言う」などのコツを共有します。

15分 【AIを使わない】4人グループでディスカッションします。手元に置くのは英語のキーワードだけにし、表現カードを使って質問したり、相手の意見を確かめたりします。司会役は全員が話せるように声をかけます。

5分 日本語で考えたことのうち、英語で伝えられたこと・伝えられなかったことを振り返り、伝えられなかったことをどう言えばよかったかを書きます。

評価

【思考・判断・表現】自分の意見と理由を整理し、相手の意見に応じながら伝えているかを、ディスカッションの観察で見取ります。
【知識・技能】言い換えた英文で、語彙や文構造を正しく使っているかをワークシートで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】AIの候補を自分が言える英語に調整しようとしている姿を見取ります。

高2 英語コミュニケーション(発信) II (仮称)　1単位時間(50分)　生成AIの使い方つき

AIを反論役に！ディベート前の想定問答づくり

AIに反対側の主張を出させて強さを吟味し、応答は自分たちの言葉で作り、最後は人どうしでミニディベートします。

手順・ワークシート

ねらい

相手側の主張の強さを根拠に基づいて判断し、それに対する応答を論理的に構成して、ディベートで伝えることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】肯定側・否定側の班を確認し、家庭学習で書いてきた主張を班で共有します。

12分 【AIを使う】AIに、自分たちと反対の立場の主張を3つ出させます。チェック表で一つずつ★を付け、最も強い反論と、最も弱い反論を選びます。弱い理由(論題とずれている、根拠がない、決めつけている など)も書きます。

10分 【AIを使わない】最も強い反論への応答を、自分たちの言葉で作ります。応答の型(That may be true, but ～. / Actually, ～. / Even if ～, ～.)を使い、根拠を一つ入れます。AIに応答を作らせないことを確認します。

5分 全体で、AIの反論の中で「強かったもの」「弱かったもの」を何班かに紹介してもらい、AIの主張にも根拠のないものや一般化しすぎたものがあることを確かめます。

15分 【AIを使わない】肯定側と否定側の班でミニディベートをします(立論2分→質疑1分→反論2分×両チーム)。準備した応答を使いつつ、相手の実際の発言を聞いて応じます。

3分 AIの予想した反論と、人が実際に言った反論の違いを振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手の主張の強さを根拠に基づいて判断し、それに対する応答を論理的に構成して伝えているかを、チェック表とミニディベートの観察で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】予想していなかった相手の発言にも応じようとしている姿を見取ります。

高2 英語コミュニケーション(発信) II (仮称)　1単位時間(50分)　生成AIの使い方つき

相手が変われば言い方も変わる！AIで比べる、ていねいさの調整

同じお願いを相手に合わせて書き分けたAIの例を比べて特徴を見つけ、自分の本当のお願いを書いて、対面でも頼んでみます。

手順・ワークシート

ねらい

相手や場面に応じて、依頼の表し方やていねいさを工夫しながら、メッセージを書いたり、対面で頼んだりすることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】先生が Check my essay. と Could you check my essay when you have time? の2つを言って聞かせ、受け取る側としてどう感じるかを話し合います。

10分 【AIで作った教材を読む】先生が「同じお願いを、相手に合わせて書き分けるよう生成AIに頼み、先生が確かめたもの」と伝え、3つの版を読み比べます。違いに線を引き、観点表に書き込みます。

8分 全体で違いを整理します(Can you ～? → Could you ～? → I was wondering if ～、理由や所要時間を添える、あいさつと結び)。あわせて、AIが最初に出した「ていねいすぎて友達には不自然な版」を先生が見せ、「ていねいなほどよい」わけではないことを確かめます。

12分 【AIを使わない】自分の本当のお願い(ALTにスピーチ原稿を見てもらう、部活動の練習試合の相手校に連絡する場面を想定する など)を一つ選び、相手に合わせてメッセージを書きます。実在の人の名前や連絡先は書かず、名前は Ms. __ などの空欄にします。

10分 【AIを使わない】ペアで対面のお願いのロールプレイをします。目線、間の取り方、表情なども意識します。ALTには、生徒が選んだ場面の相手役としてロールプレイしてもらい、何組かはALTに「頼まれてどう感じたか」を聞きます。

5分 書くときと対面で頼むときで、工夫したことの違いを振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】相手や場面に応じて、依頼の表し方やていねいさを工夫してメッセージを書いているかをワークシートで見取ります。また、対面のお願いで、言葉に加えて目線や間などを工夫しているかを観察で見取ります。【知識・技能】依頼の表現を場面に応じて正しく使っているかを見取ります。

高1 英語コミュニケーション(総合) I (仮称)　1単位時間(50分)　生成AIの使い方つき

AIの要約は何を落とした？読んで、比べて、自分の言葉で伝える

まず自分で要約し、先生が用意したAIの要約と比べて落ちた情報や言い過ぎを見つけ、最後は口頭で要約と意見を伝えます。

手順・ワークシート

ねらい

英文の概要や要点を捉えて要約し、要約の正確さを本文と照らして判断したうえで、要約と自分の意見を相手に伝えることができる。

流れ

5分 【AIを使わない】廃校になった学校の写真を見せ、その建物がどう使われているかを予想させます。

12分 【AIを使わない】本文を読み、内容理解の質問(Why did the school close? / How is the building used now? / What has the hotel brought back to the town?)に答えます。

8分 【AIを使わない】自分で3文の要約を書きます。「筆者がいちばん伝えたいこと」を必ず入れるように指示します。

10分 【AIの出力を吟味する】先生が「同じ本文を生成AIに要約させた例」として要約A・Bを示し、ペアで本文と照らして観点表に書き込みます。Aは本文と逆のこと(makes a lot of money)を言っていること、Bは町に人が集まるようになったという要点が落ちていることに気付かせ、自分の要約とも比べます。

12分 【AIを使わない】ペアで、要約と自分の意見(このホテルに泊まってみたいか、自分の町の空き家や空き校舎をどう使いたいか)を、メモを見ずに口頭で伝えます。聞き手は質問を一つします。相手を替えて2回行います。

3分 AIの要約を読むときに気を付けたいことを、一文で振り返りに書きます。

評価

【思考・判断・表現】本文の概要や要点を捉えて要約しているかをワークシートで見取ります。また、要約と自分の意見を相手に伝えているかを観察で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】AIの要約の正確さを本文に照らして確かめようとしている姿を、観点表と振り返りで見取ります。

高1 英語コミュニケーション(総合) I (仮称)　1単位時間(50分)　生成AIの使い方つき

AIとどう付き合う？英語で話し合って、クラスのAIルールをつくる

英語学習でのAIの使い方の場面カードを、OK・NG・場合による、に分けて英語で話し合い、自分たちのルールをつくります。

手順・ワークシート

ねらい

英語学習でのAIの使い方について、自分の考えを理由とともに伝え、班の意見をまとめてルールとして提案することができる。

流れ

5分 【AIを使わない】先生が「英語の学習にAIを使ったことがある人」と尋ね、どんな使い方をしたかを何人かに聞きます。

10分 【AIを使わない】班で場面カードを OK / Not OK / It depends に分け、理由を英語で伝え合います。It depends に分けた場合は、どんな条件ならOKかも話します。

12分 【AIを使わない】班で、英語の学習のためのAIルールを3つ、英語で書きます(We should ～ because ～. / We should not ～ because ～.)。「英語の力が伸びるか」「人に迷惑をかけないか」の2つの観点で考えます。

8分 【AIの出力を比べる】先生が事前に生成AIで作ったルール案を示し、自分たちのルールと比べます。「AIの案にあって自分たちにないもの」「自分たちの案のほうがよいところ」を話し合います。学校・自治体のガイドラインとも照らし合わせます。

12分 【AIを使わない】班ごとにルールを英語で発表し、ほかの班から質問を受けます(例:What if a student doesn't understand the AI's English?)。全体で投票し、クラスのルールのトップ5を決めます。

3分 自分が明日から守りたいルールを一つ選び、理由とともに書きます。

評価

【思考・判断・表現】AIの使い方について、自分の考えを理由とともに伝え、相手の質問に答えているかを、班の話し合いと発表で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】自分の学習の仕方を見つめ、よりよいAIの使い方を考えようとしている姿を、振り返りで見取ります。

13 指導案（試案）

2本

高等学校第1学年　英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）　全7時間（本時は第2時）

Tips for a Great Start ～先輩のアドバイスを読み、自分の高校生活を語ろう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、必履修科目「英語コミュニケーション（総合）Ⅰ（仮称）」の趣旨（5つの領域を総合的に扱い、領域統合を一層重視する）と、高校の入学初期に生徒の学習状況を把握しつつ中学校の既習事項を繰り返し活用する方向性を先取りした試案である。科目名を含め次期学習指導…

指導案の全文

本時のねらい

高校生活を始めるための先輩のアドバイスを読んで概要や要点を捉え、自分にとって役立つと考えるアドバイスを、理由や体験を添えて伝え合うことができる。

本時の流れ

- **5分** **導入** 挨拶をする。教師の体験談（高校1年生の最初の1か月）を聞き、'How did I feel?' 'What happened?' などの質問に答える。
- **3分** **導入** 本時のめあてを確かめる。単元のゴール（来年度の新入生へのメッセージ）と、本時がその材料集めであることを確認する。
- **12分** **展開** 【読むこと】先輩3人（Riko・Daiki・Mei）のアドバイス（各70語程度の自作の文章）を読む。①3つをざっと読み、それぞれに合う見出しを選ぶ（概要）。②一つを選んで詳しく読み、「アドバイス」「その理由・体験」を表に書く（要点）。③同じ文章を選んだ人同士で確かめ合う。
- **8分** **展開** 【支える活動】文章から、アドバイスを伝える表現（My advice is ˜. / If you ˜, it will ˜. / It's OK to ˜. / Don't ˜.）を探して下線を引き、中学校で学んだ文法と結び付けて整理する。意味のまとまりで区切って音読し、最後は顔を上げて言う（Read and Look up）。
- **12分** **展開** 【話すこと［やり取り］】3人組で「どのアドバイスが自分に一番役立つか」を、理由や自分の体験を添えて伝え合う。聞き手は質問を一つする。相手を替えて2回行い、2回目は1回目でうまく言えなかったことを言い直す。
- **6分** **展開** 【書くこと】伝え合ったことを基に、「自分に一番役立つアドバイスとその理由」を4～5文で書く（Quick Write）。
- **4分** **まとめ** 振り返りシートに、中学校で学んだ表現で使えたもの、うまく言えなかったことを書く。次時の予告を聞く。

PDF版：shidoan-ko1-sogo1-great-start.pdf（ダウンロードコーナー）

高等学校第2学年　英語コミュニケーション(発信) II (仮称)　全8時間(本時は第6時)

Our Town, Our Visitors ～町の観光についてディスカッションし、提案をまとめよう～

中教審の審議まとめ(2026年10月5日)で、現行の「論理・表現」を、Production(表現)とInteraction(やり取り)による発信力を一層強化する「英語コミュニケーション(発信)(仮称)」に見直す方向が示されたことをふまえた試案である。科目名を含め次期学習指導要領はまだ告示前であり、本…

指導案の全文

本時のねらい

町の観光についてのディスカッションで、相手の意見を受け止めながら、資料を根拠にして自分の意見を伝え合い、グループとしての提案を一つにまとめることができる。

本時の流れ

- 5分　導入　挨拶をする。ペアで日常的な話題の即興チャット(2分)をする。話題は 'What did you do last weekend?'。会話を続けるために、質問を付け加えたり、自分のことを付け加えたりする。
- 3分　導入　本時の課題を確かめる。'What should our town do about the increase in tourists?' についてディスカッションし、グループの提案を一つにまとめること、各グループが「高校生まちづくり会議」の1班であることを確認する。
- 7分　展開　【支える活動】ディスカッションの方策カード(聞き返す・付け加える・丁寧に反対する・まとめる)の表現を確かめる。教師とALTの1分間のモデル・ディスカッションを見て、どの方策が使われたかを答える。
- 10分　展開　【コミュニケーション活動】ラウンド1：4人グループで、一人ずつ1分間のステートメント(第3・4時に準備したもの)を述べた後、自由にディスカッションする。端末で録音する。
- 5分　展開　【中間指導】ラウンド1で見られたよいやり取り(相手の意見を受け止めてから反対した例、資料の数値を根拠に示した例)を全体で共有する。「意見」と「事実(データ)」の区別を確かめる。
- 12分　展開　【コミュニケーション活動】ラウンド2：グループの提案を一つにまとめる。複数の意見の共通点や組み合わせられる点を探し、'Our group proposes that ~.' の形で提案の骨子をホワイトボードに書く。
- 8分　まとめ　各グループが30秒で提案を発表する('Our group proposes that our town should ~. This is because ~. For example, ~.')。他のグループの提案のよい点を一つメモする。振り返りシートに、使った方策、言いたかったのに言えなかったこと、次に改善したいことを書く。

PDF版：shidoan-ko2-hasshin2-tourism-discussion.pdf(ダウンロードコーナー)

14 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領(平成30年告示)(本文)**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編**
https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf

PDF **(付録8)「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_26_1.pdf

PDF **(付録9)「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_27_1.pdf

PDF **(付録10)「外国語活動・外国語の言語活動の例」学校段階別一覧表**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_28_1.pdf

PDF **(付録11)高等学校「外国語の目標」の科目段階別一覧表**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_29_1.pdf

PDF **(付録12)高等学校「外国語の言語活動の例」の科目段階別一覧表**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_30_1.pdf

文部科学省の公式PDFです(クリックで開けます)。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）**P○ は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る